

(お知らせ)

停止中の柏崎刈羽原子力発電所 7号機における
主排気筒からのヨウ素等の検出に伴う調査状況について

平成 19 年 7 月 19 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

7月16日の地震に伴い自動停止した当所7号機における主排気筒からのヨウ素等の検出につきましては、[7月17日にお知らせ](#)しておりますが、本日までの調査の状況をお知らせいたします。

調査の結果、原子炉の自動停止後の操作過程において、タービンランド蒸気排風機の停止操作が遅れたため、復水器内に滞留していたヨウ素および粒子状放射性物質が、タービンランド蒸気排風機により吸引され、排気筒を経て今回の放出に至ったものと推定しておりますが、今後も調査を継続いたします。

なお、当該排風機は7月18日午前10時56分に停止いたしました。また、原子炉水のサンプリングの結果、燃料棒から原子炉水への放射性物質の漏えいがないことを確認しております。

7号機主排気筒放射線モニタ^{*1}およびモニタリングポストに有意な変化はありません。

当所では、本事象に鑑み、7号機の主排気筒における放射性ヨウ素および粒子状放射性物質の測定を、1週間に1回の測定から測定頻度を増やして毎日測定するとともに、周辺監視区域境界付近における空気中のヨウ素および粒子状放射性物質の測定を毎日行うこととし、いずれも7月18日より開始いたしました。

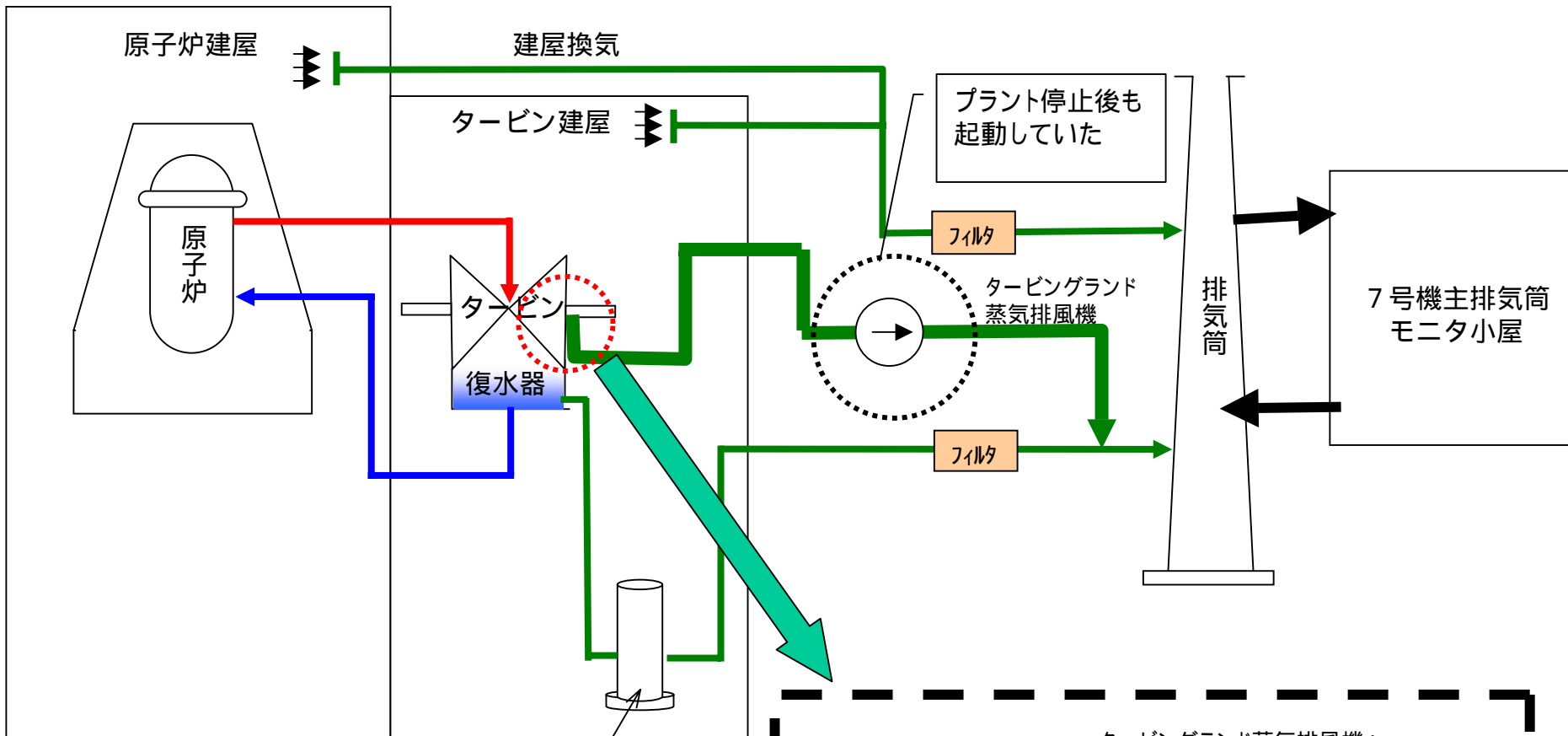
その結果、主排気筒における7月18日分の測定では、ヨウ素131およびヨウ素133が検出されましたが、周辺監視区域境界付近における7月18日および19日分の測定では、放射性物質は検出されませんでした。

なお、7号機の主排気筒からの放射性物質放出で受ける放射線量は、これまでの合計で、放射性ヨウ素が約 2×10^{-7} ミリシーベルト、粒子状放射性物質が約 7×10^{-10} ミリシーベルトとなりますが、一般公衆の線量限度1ミリシーベルトの1千万分の2であり、自然界から1年間に受ける放射線量2.4ミリシーベルトと比較しても十分低い値となっています。

以上

* 1 : 主排気筒放射線モニタ

建物内の空気はフィルタなどを經由し排気筒から放出している。主排気筒放射線モニタは環境への放出にあたり排気中の放射線を測定する装置。



活性炭式希ガス
ホールドアップ装置

